

【私たちにもできる CO₂削減】

国民 1 人あたり 1 日に排出するCO₂の量は平均 6kg

削減行動によって1日に減らすことができるCO₂の量はどのくらいなのでしょう。
削減できるCO₂をgに換算してご紹介します。

<1日に削減できるCO₂量>

ご家庭やオフィスで



- 暖房設定 22℃→20℃ 【96g】
- 冷房設定 26℃→28℃ 【83g】
- シャワーの使用時間を1日1分短く 【74g】
- 夜中のジャーの保温を止める 【37g】
- 使わないとき温水洗浄便座のフタを閉める 【15g】

お出かけやお買い物で

- 発進時にふんわりアクセル 【207g】
- 通勤や買い物時にバス・鉄道・自転車を利用 【180g】
- リターナブル瓶の商品を選ぶ 【98g】
- アイドリングを5分短縮 【63g】
- マイバッグ持参、省包装の野菜を選ぶ 【62g】

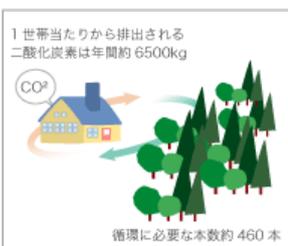
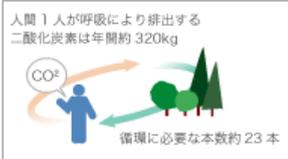


買い替えや導入で



- 太陽光発電を新規設置 【670g】
- 屋上緑化を新規導入 【107g】
- 古いエアコンを省エネタイプへ 【104g】

出典 ・チーム・マイナス6%「めざせ!1人、1日、1kg CO₂削減」
・一般社団法人東京建設業協会ホームページ



【森のCO₂削減能力ってどのくらい?】

人の呼吸で排出されるCO₂ 1年分を吸収するには
スギ23本が必要

▼森林は二酸化炭素を吸収し、地上部および地中に貯蔵して地球温暖化防止の役割を果たします。▼その吸収量は、樹種や林齢により異なりますが、例えば50年生スギの人工林面積1ヘクタール当たりの炭素貯蔵量は170トン、1本あたりでは約190kgに達すると試算されています。▼これを50年で割れば1年間平均で1本あたり約3.8kgの炭素(約14kgの二酸化炭素)を吸収したことになります。

出典 関東森林管理局 HP

【脱炭素・再生可能エネルギー促進に向けた動き】

～最近の新聞記事より～

■脱炭素「産業革新」迫る (2021年4月23日 日経新聞)

政府が2030年度時点の温暖化ガスの排出削減目標を大幅に引き上げたことにより、13年度比46%減という道は険しい。産業界は抜本的な対応の見直しが迫られる。政府は2兆円の基金をつくり、脱炭素につなげる研究開発を支援する方針。炭素税などによる排出削減も検討している。

■アンモニア発電に注目 (2021年5月8日 産経新聞)

環境負荷が少ない火力発電の燃料としてアンモニアに期待が集まっている。次世代燃料として注目される水素同様、燃やしても二酸化炭素(CO₂)を出さない。次期エネルギー基本計画に盛り込む2030(令和12)年度の電源構成で燃やしてもCO₂を出さない水素とアンモニアの発電割合を約1%とする方針。

■東証「環境債」市場を整備 (2021年5月13日 日経新聞)

金融庁と東京証券取引所は、環境に配慮したグリーンボンド(環境債)への投資環境を整備する。第三者機関などが環境債の発行手続きや調達した資金の使い道を精査する仕組みを新たに導入。

■電動車販売800万台 脱炭素へ30年目標 (2021年5月13日 日経新聞)

トヨタ自動車は脱炭素に向けた新たな目標も示した。ハイブリット車(HV)を含めた電動車の世界販売台数を、2030年に800万台と、21年3月期の4倍弱に増やす。単純比較は出来ないが、これはトヨタグループの直近の世界販売台数の約8割に相当する規模。

■「サステナブル」で格好よく (2021年5月15日 日経新聞)

地球環境に配慮した「サステナブル・ファッション」に関心が集まっている。バナナの葉やペットボトル、間伐材など様々な廃材を活用した商品が相次いで登場。環境への負荷が少ない服飾品を身に着けることが新たなおしゃれや着こなしとして広がってきた。

■再生素材100%ペットボトル (2021年5月17日 読売新聞)

日本コカ・コーラは炭酸飲料「コカ・コーラ」の容器を5月以降、使用済みペットボトルから再生した素材を100%使用したペットボトルに切り替える。これにより、同社の飲料で再利用した容器を使う割合は、2020年の約28%から22年は50%まで高まる見通し。

■大型船燃費 国際格付け (2021年5月17日 読売新聞)

国をまたいで運航する船(外航船)の燃料性能を格付けする国際的な新制度が日本主導で創設される見込み。運航距離と船の重さ、燃料消費量から二酸化炭素(CO₂)の排出量を換算して比較、最低ランク「E」もしくは三回連続「D」の場合は改善計画を提出する必要がある。